

第2次富谷市総合計画の将来像等について

富谷市の現状・特徴

自然的特性

- 雪も少なく東北地方の中でも温暖な気候
- 豊かな自然環境に恵まれている
- 江戸時代から奥州街道の宿場町として発展
- 災害は比較的少ないが、令和元年の東日本台風では河川被害に加え土砂崩れが発生

居住者特性

- 住宅地開発で人口が急増してきたが、最近では微増となっている
- 世帯数は増加を続けているが、世帯当たり人員は減少傾向にある
- 出生数の低下傾向により少子高齢化の進行が見え始めている

通勤・通学の状況

- 就業者は流出超過で常住地としての役割大（昼夜間比率は県内で下から2番目）
- 就業者の流入は、実数・割合とも増加傾向
⇒ 流入は、仙台市（特に泉区）・大和町、流出は、仙台市（特に泉区と青葉区）・大和町が多い

土地利用の特性

- 森林（42.0%）と農地（13.2%）が富谷市全体の55.2%
- 市内全域が都市計画区域、市街化区域（＝用途地域）が25.2%
- 宮城県平均に対し、住宅系、工業系の用地地域指定割合が高い
- 成田二期北工業団地（約200ha）の整備が進む

経済・産業特性

- 一人当たり市民所得は県平均の105.9%
- 市内総生産は安定的に増加傾向
- 事業所数及び従業者数は増加傾向
⇒ 事業所は卸売・小売業、建設業、生活関連サービス・娯楽業で約50%
- 製造業の事業所数・出荷額等は現状低位ながら増加基調、工業用地拡大余地あり
- 農業産出額の6割は米だが、野菜、ブルーベリー等様々な品目を産出
- 仙台市へ買物先としての流出が見られる
- 「とみやど」オープンで観光入込が大幅増

時代の潮流

- 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会構造やニーズの変化
- 大規模災害や新たな感染症等の脅威
- デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成
- CO2排出量削減等の環境問題への対応
- 価値観やライフスタイルの多様化
- まちづくりへの市民参加と協働の進展
- DXによる地域課題解決や自治体経営のイノベーション（スマート自治体への転換）

施策の進捗

庁内各部署において、後期基本計画の施策の成果及び課題、今後の方向性について検証した

【成果】

- 後期基本計画の成果目標の達成状況
46項目のうち15項目（達成率32.6%）
※ 達成度90%以上の項目を含んだ場合は、26項目（達成度56.5%）
- 施策実施状況調査における進捗状況
順調12項目、概ね順調12項目

市民ワークショップ

開催日時：① 令和6年12月21日（土）
② 令和7年1月11日（土）
③ 令和7年2月9日（日）

参加者数：40名程度を公募（5名8グループ）
開催概要：3回のワークショップを通じて、【市民が考える2050年（30年後）を見据えた「富谷市の将来像」】をテーマに議論

【実施後に反映】

施策分野別ヒアリング

- 地域事業者（団体）等が連携しやすい環境づくりや事業活動の広報・宣伝・PRへの支援を求める
- 若い人が働きたくなくなるような企業の誘致に取り組む必要がある
- 新規就農者への支援策の拡充が必要
- 創業者への補助金制度等の充実や活動拠点としてのレンタルオフィス確保が必要
- 宿泊施設や物販施設が少ない
- 道の駅等の高い集客性が見込める施設の整備に取り組む必要がある
- 特産品の供給体制の確立や誰もが分かる富谷名物を作ることが必要
- 公共交通の利便性対策（デマンド交通の拡充、自動運転の導入等）が必要
- 介護予防や健康寿命を延ばす施策の充実や高齢者の居場所づくり、医療施設の充実に取り組む必要がある
- 市民力の高さを活かすことや、少子高齢化を見据えた地域の担い手づくりが必要

市民意向（アンケート調査）

概要：富谷市にお住いの18歳以上の市民から無作為抽出した2,000名を対象に実施
回収数：1,226票（郵送767票、Web459票）
※回収率61.3%

【主なアンケート結果】

- 富谷市に愛着を感じている：86.6%
- 富谷市で今後も暮らしたい：84.7%
- 市民が望む「目指すべきまちづくり」トップ3
 - ① 道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち
 - ② 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち
 - ③ 子育て環境や子どもたちを育む教育の充実したまち
- 市民が望む「今後必要な事業」トップ3
 - ① 仙台市泉中央までの交通利便性の確保
 - ② 安全・安心な暮らしの確保
 - ③ 総合病院などの医療機関の誘致

市長トップインタビュー

【富谷市の将来像等について】

- 将来像の「住みたくなるまち日本一 100年間ひとが増え続けるまち」の実現のために必要な施策に引き続き取り組んでいく
- 富谷市の強みの一つである「緑豊かな自然環境」を活かしながら持続可能な田園都市を目指す
- 引き続き、富谷の宝である子どもたちを大切にしていいため、「子どもにやさしいまちづくり」を全庁で推進する
- 誰もが生き生きと暮らせるように、高齢者・障がい者への支援など健康福祉の充実に取り組んでいく
- 企業誘致や新しい住宅地の整備を計画的に行い、人口増を目指す
- 基本理念にある「オールとみや」の考え方は大事にしていく
- 市民ニーズが高い交通利便性の確保に、引き続き取り組む

まちづくりの課題整理

内部環境

強み (Strengths)

- 優れた住環境(都市機能と豊かな自然が共存)
- 子育て支援・教育環境の充実
- 市内総生産は安定して増加
- 富谷塾による起業家への支援
- 企業誘致による製造業の集積の可能性
- 成田二期北工業団地(約200ha)の整備が進む
- 産学官連携の推進
- 特産品(ブルーベリー等)や「とみやど」等の観光資源の存在
- 市民力の高さ、女性活躍
- 市民協働のまちづくりの推進

弱み (Weaknesses)

- 人口流入の鈍化と出生率低下
- 昼夜間人口比率の低さ
- 人1人あたり工業生産額が県平均より低い
- 農業の担い手の減少
- 観光スポットが点在、認知度が低い
- 医療・福祉施設が少ない
- 公共交通機能が不十分

主要課題

【産業・観光・歴史】

- 製造業等の企業誘致による働く場所の確保
- 市内企業の育成、稼ぐ力の向上
- 富谷塾等を通じた地域で活躍する人材の更なる育成・支援

【都市基盤】

- 新たな宅地開発や住環境整備
- 新たな商業地域の開発
- DXの促進による経済や市民生活の質の向上
- 公共交通機関の利便性向上

【子育て・学校教育】

- 子どもにやさしいまちづくりの普及・啓発、事業の取組
- 子育て支援の更なる充実
- 教育環境の更なる充実

【健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化】

- 医療・福祉施設の拡充
- 健康づくり・生きがいづくりの推進
- 高齢者や障がい者等への支援の充実

【防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化】

- 防災組織の育成促進
- 安全・安心な生活環境の確保
- 多文化共生の推進

【自然環境・ゼロカーボン・環境衛生】

- 豊かな自然環境の維持
- SDGsや環境問題への対応

【市政運営】

- 市民力の高さを活かした協働のまちづくり
- 地区ごとの特性や人材を活かしたまちづくりの推進
- シビックプライドの醸成 等

外部環境

機会 (Opportunities)

- デジタル技術などのイノベーション、リアルとの融合の進化
- SDGsに向けた新たな産業創出やライフスタイル変革の可能性
- 宮城県内への半導体産業誘致・育成の動き
- 仙台北部道路富谷ジャンクションのフル化及び4車線化による交通網の充実
- 総合病院の誘致による医療の充実

脅威 (Threats)

- 少子・高齢化の急速な進展による社会構造やニーズの変化
- 仙台圏の人口減少の影響
- 日本の経済成長率予想の低さと国・地方の財政制約
- 気候変動に伴い頻発する自然災害や新たな感染症の脅威
- 環境問題への対応の必要性
- インフラ等の更新費用増大

富谷市が目指す将来像

住みたくなるまち日本一

～ 100年間ひとが増え続けるまち ～

<キーワード> やさしい・誇り・生き生き・育む・愛のある・子ども
 思いが実現できる・つなぐ・誰もが・楽しく・元気・住みよい
 幸せを感じる・すべての人に・心豊かに・支え合う・希望・思い敬う
 都市と自然・心地よい・未来 など

基本理念のもと富谷市が目指す将来像の実現に向けて7つの基本目標を定めます

将来像

基本理念

基本目標

“オールとみや”で創る

① 活力と魅力があふれるまち
産業・観光・歴史

② 快適で住みよいまち
都市基盤(公共交通・道路・公園・上下水道・住環境)

③ 子どもと子育てにやさしいまち
子育て・学校教育

④ 誰もが健康で生き生きと暮らせるまち
健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化

⑤ 安全安心で誰もが暮らしやすいまち
防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化

⑥ 未来へつなぐ環境にやさしいまち
自然環境・ゼロカーボン・環境衛生

⑦ 協働でつくる持続可能なまち
市政運営(行財政・市民協働・広報広聴)